

# 経営体育成基盤整備事業【夕張太北地区】

## 事業の概要

### ○事業目的

本地区は、北海道空知管内の西南端、石狩平野中央の南幌町に位置し、千歳川沿いに広がる平坦地において大規模農業が展開されている。

しかしながら、地区内のほ場の大半が30～40aの小区画不整形かつ排水不良であり、また、用排水路も老朽化による損傷や軟弱地盤による不等沈下による漏水状況が著しく農作業の効率化や農地の高度利用の阻害要因となっていた。

このため、本事業により、ほ場の大区画化や用排水路・道路等の整備・合理化を行い、農業生産の効率化・高度化を図るとともに、事業を契機として意欲的な農業後継者に農地の利用集積を図り生産組織の拡大と法人化を拡大することによって担い手の育成を図り、地域の農業構造の改善等に資する。

### ○概要

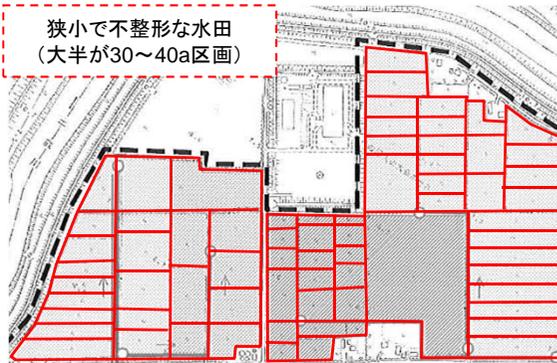
事業名	経営体育成基盤整備事業
地区名	夕張太北
関係市町村	北海道空知郡南幌町
事業費	1,374百万円
事業工期	平成16年度～平成21年度 (計画変更:平成18年)
受益面積	204ha
主要工事	区画整理 152ha 暗渠排水 45ha 農業用排水施設 5.3km (用水路 3.8km 排水路 1.5km)



## 事業の実施状況と効果

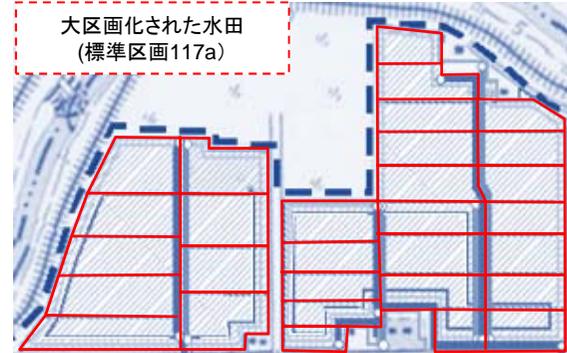
### <整備前の状況>

狭小で不整形な水田  
(大半が30～40a区画)



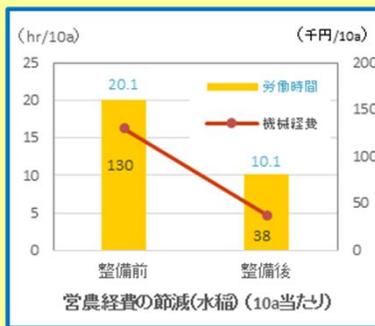
### <整備後の状況>

大区画化された水田  
(標準区画117a)



### <事業の効果>

ほ場の大区画化や用水の安定供給及び排水性の改善が図られ、営農経費の節減や農業生産性の向上が図られている。  
※費用便益比(B/C):1.74



平成27年度 補助事業評価（事後評価）

## 経営体育成基盤整備事業

ゆうばりぶときた  
夕張太北地区

【基礎資料】

平成28年2月

農村振興局 整備部 農地資源課

# 経営体育成基盤整備事業 夕張太北地区

## 【事業の概要】

関係市町村：北海道空知郡南幌町

事業目的：本地区は、北海道空知管内の西南端、石狩平野中央の南幌町に位置し、千歳川沿いに広がる平坦地において大規模農業が展開されている。

しかしながら、地区内のほ場の大半が30～40aの小区画不整形かつ排水不良であり、また、用排水路も老朽化による損傷や軟弱地盤による不等沈下による漏水状況が著しく農作業の効率化や農地の高度利用の阻害要因となっていた。

このため、本事業により、ほ場の大区画化や用排水路・道路等の整備・合理化を行い、農業生産の効率化・高度化を図るとともに、事業を契機として意欲的な農業後継者に農地の利用集積を図り生産組織の拡大と法人化を拡大することによって担い手の育成を図り、地域の農業構造の改善等に資する。

受益面積：204ha

受益者数：26人

主要工事：区画整理 152ha

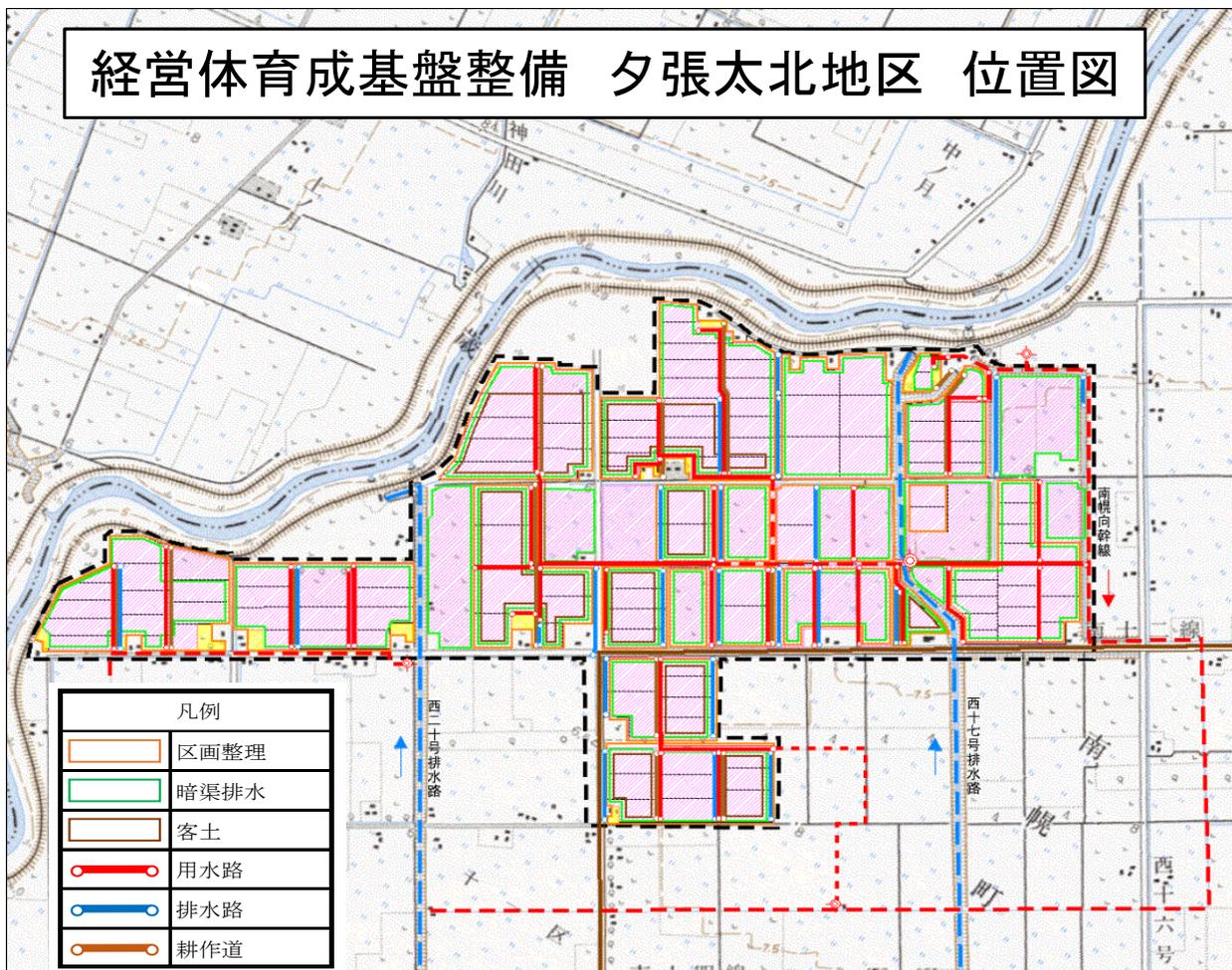
暗渠排水 45ha

農業用用排水施設 5.3km（用水路 3.8km、排水路1.5km）

総事業費：1,374百万円

工期：平成16年度～平成21年度（計画変更：平成18年度）

関連事業：なし





事業実施前（用水路）  
（平成19年4月撮影）



事業実施後（用水路）  
（平成19年9月撮影）



事業実施前（排水路）  
（平成19年6月撮影）



事業実施後（排水路）  
（平成19年9月撮影）



作付状況（キャベツ）  
（平成27年9月撮影）



作付状況（ねぎ）  
（平成27年9月撮影）

## 1 社会経済情勢の変化

### (1) 社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成12年と平成22年を比較すると10%減少し、北海道全体の減少率3%を上回っている。(北海道全体：H12:5,683,062人 H22:5,507,456人)

#### 【南幌町の人口、世帯数】

区分	平成12年	平成22年	増減率
総人口	9,792人	8,778人	△10%
総世帯数	2,992戸	3,068戸	3%

(出典：国勢調査)

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の22%から平成22年の19%に減少しているものの、平成22年の北海道全体の割合7%を上回っている。

#### 【南幌町の産業別就業人口】

区分	平成12年		平成22年	
	人数	割合	人数	割合
第1次産業	1,024人	22%	824人	19%
第2次産業	983人	21%	785人	19%
第3次産業	2,723人	57%	2,663人	62%

(出典：国勢調査)

#### 【南幌町の産業別15歳以上の就業者数】

(単位：人)

産業名	事業実施前 平成12年	評価時点 平成22年	増減	増減率 (%)
農業	1,020	821	△199	△20
林業	4	3	△1	△25
漁業	-	-	-	-
鉱業	1	2	1	100
建設業	624	379	△245	△39
製造業	358	404	46	13
電気・ガス・熱供給・水道業	15	11	△4	△27
運輸・通信業	358	370	12	3
卸売・小売業・飲食店	771	557	△214	△28
その他	1,602	1,838	236	15
総数	4,753	4,385	△368	△8

(出典：国勢調査)

### (2) 地域農業の動向

平成12年と平成22年を比較すると、経営耕地面積については2%、農業戸数は47%、農業就業人口は41%減少しており、65歳以上の農業就業人口も23%減少している。

一方、農家1戸当たりの経営面積は85%増加しており、認定農業者数は平成22年時点で157人となっている。

#### 【南幌町の経営耕地面積等】

(単位：ha)

区分	平成12年	平成22年	増減率
経営耕地面積	5,622ha	5,509ha	△2%
農家戸数	396戸	210戸	△47%
農業就業人口	939人	553人	△41%
うち65歳以上	225人	173人	△23%
戸当たり経営面積	14.2ha/戸	26.2ha/戸	85%
認定農業者数	197人	157人	△20%

(出典：農林業センサス、認定農業者数は北海道調べ)

【南幌町の耕地面積】

(単位：ha)

区分	事業実施前 平成15年	評価時点 平成26年	増減	増減率 (%)
田	5,390	5,255	△135	△3
うち本地	5,140	5,020	△120	△2
畑	231	253	22	10
牧草	1	1	0	0
計	5,622	5,509	△113	△2

(出典：南幌町聞き取り)

2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された揚水機、用水路、排水路、農道については、北海土地改良区南幌事業所より巡回点検・補修・草刈り等の日常管理が適切に行われており、施設機能は十分に維持されている。

また、一部の農業用排水施設においては、多面的機能支払交付金を活用し、地域住民が一体となって、施設の点検や施設周辺での草刈り等を行っている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

小麦、大豆、キャベツ、かぼちゃは、大区画化に伴う農作業の効率化や排水改良・土層改良によるほ場条件の改善により、計画を上回る作付けとなっている。

【夕張太北地区の作付面積】

(単位：ha)

区分	事業計画 (平成18年)		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年) a	計画 b			
水稻	111.8	101.0	82.5	△29.3	△26
小麦	41.8	41.8	50.3	8.5	20
小豆	21.2	26.7	5.5	△15.7	△74
大豆	11.3	14.0	37.9	26.6	235
キャベツ	6.1	7.7	13.2	7.1	116
ねぎ	3.9	4.9	3.7	△0.2	△5
かぼちゃ	0.0	0.0	3.0	3.0	皆増

(出典：事業計画書 (最終計画)、JAなんぼろ聞き取り)

【夕張太北地区の生産量】

(単位：t)

区分	事業計画 (平成18年)		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年) a	計画 b			
水稻	572	556	455	△117	△20
小麦	193	231	277	84	44
小豆	41	61	12	△29	△71
大豆	26	38	103	77	296
キャベツ	315	474	811	496	157
ねぎ	116	174	132	16	14
かぼちゃ	0	0	40	40	皆増

(出典：事業計画書 (最終計画)、JAなんぼろ聞き取り)

## 【夕張太北地区の生産額】

(単位：百万円)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年) a	計画 b			
水稻	117	113	96	△21	△18
小麦	31	37	46	15	48
小豆	14	21	4	△10	△71
大豆	6	9	24	18	300
キャベツ	12	18	32	20	167
ねぎ	27	40	31	4	15
かぼちゃ	0	0	4	4	皆増

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

## (2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化や排水改良に伴う大型農業機械の導入及び農業用水の安定供給により、事業実施前と比べ農作業に係る労働時間等の節減が図られている。

## 【夕張太北地区の労働時間】

(単位：hr/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年) a	計画 b			
水稻	201.2	109.3	101.4	△99.8	△50
小麦	18.7	13.8	12.3	△6.4	△34
小豆	56.0	50.9	47.5	△8.5	△15
大豆	56.0	50.9	47.5	△8.5	△15
キャベツ	511.6	475.0	470.0	△41.6	△8
ねぎ	2,434.1	2,350.0	2,150.1	△284.0	△12

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

## 【夕張太北地区の機械経費】

(単位：千円/ha)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年) a	計画 b			
水稻	1,295	402	382	△913	△71
小麦	143	99	101	△42	△29
小豆	108	83	73	△35	△32
大豆	108	83	73	△35	△32
キャベツ	318	225	210	△108	△34
ねぎ	466	390	436	△30	△6

(出典：事業計画書（最終計画）、JAなんぼろ聞き取り)

夕張太北地区の営農状況



田植え（水稲）  
（H27年5月撮影）



収穫（水稲）  
（H27年9月撮影）



4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

① 農業生産性の向上

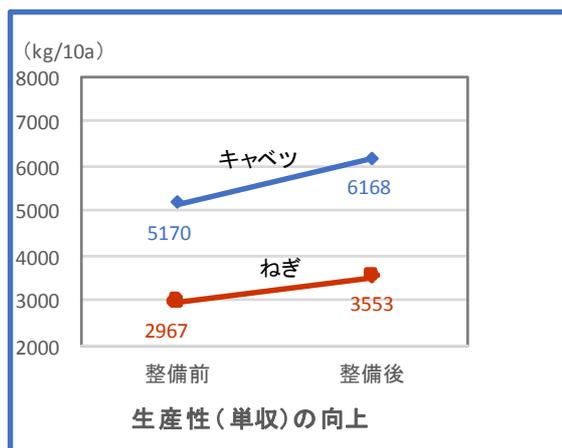
本事業による排水改良や土層改良とともにほ場毎に暗渠排水と用水路を接続し、用水を洗浄水として注入することで暗渠排水管の清掃を可能とした集中管理孔を導入した結果、排水性等の土壌条件が向上したため、単収が増加するなど農業生産性が向上している。

【夕張太北地区における単収】

(単位：kg/10a)

区分	事業計画 (平成18年)		評価時点 (平成26年)	増減	増減率 (%)
	現況 (平成18年)	計画			
	a	b	c	d=c-a	e=d/a
水稲	512	550	551	39	8
小麦	462	552	552	90	19
小豆	192	230	227	35	18
大豆	229	272	273	44	19
キャベツ	5,170	6,156	6,168	998	19
ねぎ	2,967	3,557	3,553	586	20

(出典：事業計画書 (最終計画)、JAなんぼろ聞き取り)



(2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

① 農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

本事業による農業生産基盤の整備に伴い、農業生産法人（3法人）が設立されており、認定農業者と合わせて、地域農業の担い手が育成されているとともに、これら担い手への農地集積が進み、計画を上回る農地集積率となっている。

【夕張太北地区の担い手の育成状況】

(単位：人、法人)

区分	事業計画（平成18年）		評価時点 （平成26年） c	増減 d=c-a	増減率 （%） e=d/a
	現況 （平成16年） a	計画 b			
認定農業者	15	17	8	△7	△47
農業生産法人	1	3	3	2	200

(出典：南幌町聞き取り)

【夕張太北地区の専兼別農家数】

(単位：戸)

区分	事業着手時 平成15年 a	完了直前 平成21年 b	評価直近 平成26年 c	増減 d=c-a	増減率 （%） e=d/a
専業農家	20	19	11	△9	△45
兼業農家	8	0	0	△8	皆減
第1種兼業農家	8	0	0	△8	皆減
第2種兼業農家	0	0	0	0	0
合計	28	19	11	△17	△61

(出典：南幌町聞き取り)

【夕張太北地区の経営規模別農家戸数】

(単位：戸)

区分	事業着手時 平成15年 a	完了直前 平成21年 b	評価直近 平成26年 c	増減 d=c-a	増減率 （%） e=d/a
3.0ha未満	0	0	0	0	0
3.0ha～5.0ha	2	0	0	△2	皆減
5.0ha～10.0ha	6	1	0	△6	皆減
10.0ha～15.0ha	6	0	0	△6	皆減
15.0ha以上	14	18	11	△3	△21
合計	28	19	11	△17	△61

(出典：南幌町聞き取り)

【夕張太北地区の担い手への農地集積状況】

(単位：ha、%)

区分	地区面積 A	所有面積	賃貸借権 設定面積	基幹3作業 受託面積	農地 利用集積 面積	集積率 計
		B	C	D	E	E/A
事業実施前a(平成18年)	208.6	77.6	51.8	0.0	129.4	62.0
計画b	204.2	114.8	72.2	0.0	187.0	91.6
増加率(b/a-1)*100		47.9%	39.4%	0.0	44.5%	47.7%
評価時点c(平成26年)	204.2	123.9	64.5	0.0	188.4	92.3
増加率(c/a-1)*100		59.7%	24.5%	0.0	45.6%	48.9%

(出典：農業農村活性化計画達成状況報告書、南幌町聞き取り)

(3) 事業による波及的効果等

株式会社農産物加工センター（ぼけっとハウスなんぼろ）では、地区内で生産されたキャベツを利用した「キャベツキムチ」の加工を行い、町内外のスーパー等で販売している。

また、クリーン農業の取組として「土作りの推進」のため堆肥等有機質の適正施用や緑肥作物の導入による、土壌の改善を図り、排水対策や土壌診断に基づいた適正施肥などの土作りを行っている。

これら6次産業化及びクリーン農業の取組により農産物の付加価値化が図られているとともに、新たに雇用が創出されており、地域の活性化に寄与している。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 2,788百万円

総事業費 1,601百万円

投資効率 1.74

(注) 投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業で整備された用排水路により大雨による道路や宅地等の浸水被害が軽減するとともに、区画整理で農地が整然と整備されたことにより、農村景観が良くなった。

また、幹線用水路を一部管水路として埋設することによって、用排水路付近の安全性が向上した。

(2) 自然環境

本地区は、工事の実施にあたり汚濁水の排出防止や低騒音・低振動・低排出ガスの重機を使用し、隣接する千歳川に飛来するマガモ等の野鳥への配慮を行った結果、事業実施後も野鳥の生息環境が維持保全されている。

また、区画整理にあたっては、既存の防風保安林（トドマツ）を残すように努めた結果、農村景観が保全されている。

6 今後の課題等

本事業によるほ場の大区画化と汎用化による大型機械化営農が促進され、大規模農業経営に向けた課題が改善され、併せて担い手への農地集積が進んでいる。

今後は、6次産業化のさらなる推進や、野菜等の高収益作物栽培を中心とした生産法人や認定農業者の育成などによる所得向上とともに、地域の特産品を開発し、さらに直売所で販売することにより、新たな雇用を創出するなど、地域の活性化を図る必要がある。

7 事後評価結果

本事業の実施によって農作業の効率化が図られるとともに作付け作物の選択的拡大の促進やキャベツやねぎの単収が10a当たり約20%増加するなど生産性が大きく向上している。

また、農業生産法人が新たに設立され、これらの法人等の担い手への農地集積が促進され、地域農業構造の改善が図られている。

この他、キャベツの安定生産により地域の特産品の販売の維持及び雇用の確保がなされており、地域の活性化に寄与している。